

## は じ め に

県下諸職調査は、昭和60・61年度の継続国庫補助事業として実施された。職人と呼ばれる職業のうち、時代と共に消えようとする船大工、水車大工、馬蹄鍛冶、髪結い、瓦窯業、井戸掘りなど、約80職種、150件の職人を対象に、聴きとり調査を行なった。調査員22名によるもので、この種の全県的調査としては、九州では熊本県に一つのものである。

時代の文明、流行の波に押されて職業は変った。生業として成立しないもの（屋根ふき）、手工業のコスト高によって大手企業の大量生産に太刀打ちできず、需要を失ったもの（紙漉き）、修業がつかなく継承者のないもの（鋸鍛冶）などである。

私も調査に参加した。髪結いの老婦人は、「最近はカツラばかりで、40年ぶりの仕事だ」と言って「挑割れ」を見せてくれた。また、日本瓦業者は、「業者が戦前の3分の1に減った。大企業に勝つためには屋根ふきまでやる」と言う。木造船がプラスチック船になり、和傘、下駄、製蠟業者も珍しい。

対話者の殆んどが高齢で、聴きとりに困難が多かった。あと数年すれば更に業種は減少したにちがいない。その意味で、これは限界の好機をとらえた調査であった。

終りに、調査員各位のご努力、ご苦心に対して深甚の謝意を表するとともに、大方諸賢のご批正を仰ぐものである。

1987年3月 館長 工 藤 勝 武